

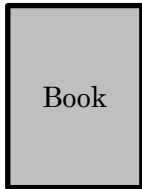


家族読書におすすめ こんな本はいかが



NO.5

光南台中学校区の学校司書がおすすめする、大人も子どもも楽しめる本を紹介します。家族読書の際の参考にしてみてください。



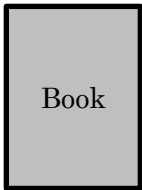
ちびゴリラのちびちび ルース・ボーンスタイン 作 ほるぷ出版

ちいさなかわいいゴリラちびちび。お父さん、お母さん、チョウやオウム、ヘビもゾウもライオンも、森に住む仲間みんなちびちびが大好きでした。そんなちびゴリラに、ある日何かがおこりました。ちびちびはいったいどうなってしまうのでしょうか…。



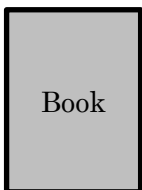
さくらいろのりゅう 町田尚子 作 アリス館

むかしむかし、あるところにみんなからコイシと呼ばれていたむすめがいました。いつもひとりぼっちだったコイシにできたのは、美しいあおりりゅうの友達でした。大切な友達を守ろうとした心優しいりゅうと少女のお話です。



びりっかすの神さま 岡田淳 作 偕成社

転校した始が、はじめての教室で出会った、小さなすきとおった男、「びりっかすさん」。最初は始にしか見えなかった「びりっかすさん」を見ることをめぐって、バラバラだった教室はやがてひとつにまとまりはじめ…。がんばる、ということの意味を考えさせてくれる、あたたかい一冊です。



君はレフティ 額賀 濤 著 小学館

夏休み中、交通事故に遭い古谷野真樹(高2)は後遺症ですべての記憶を失った。学校生活に復帰した新学期、文化祭前の高校で謎の落書き事件が勃発。最初は他愛ないいたずらかと思われたが、落書きは段々とエスカレートしていく。そして、その落書きはあたかも真樹に向けられたメッセージのようだった。その謎を追っていくうちに次々と見えてきてしまった親友の秘密。そして……記憶喪失の僕が取り戻した大切な「真実」とは。



優しさや勇氣の育てかた 複回院生21の生きる力 水谷 修 著 日本評論社

「生きていてくれてありがとう。こころの扉を開けば、輝く明日が。今すぐ、あなたにできる一番大切なことだけを書きました。」30年以上、子ども・若者・親とのかかわりで夜回り先生が体得した幸せな人生の鉄則。



目でみることばのずかん おかべたかし 文 やまでたかし 写真 東京書籍

「見た」ことばは、なかなかわすれない。「見る」と、ことばにもっときょうみかわいてくる。(本文より) 38の言葉を写真を使って目で見える形で説明した本です。「とくだいもとくらし」「ちよっかい」といった言葉の語源や「牛」や「冬」などの漢字の形、「イモリ」と「ヤモリ」、「あふれる」と「こぼれる」など似ているものの違いについて取り上げています。